

# 日本青年館の工事

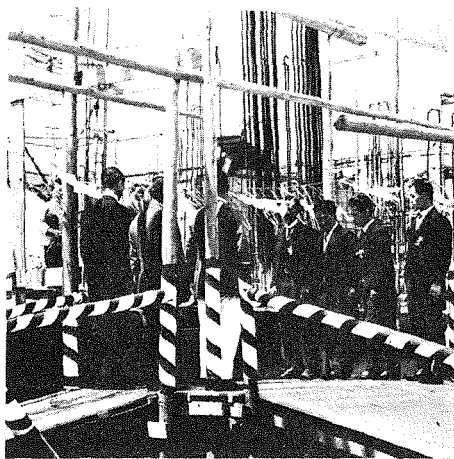
木村榮二郎

## 建設の趣旨

日本青年館を建設する事になりました趣旨は別項定礎板の文面にもあります様に大正九年十一月攝政の宮から全國青年に對し優渥な御令旨を賜はりましたについて時の内相床次竹次郎氏の肝煎りて全國二百餘萬の青年が自分の勤勞を節約に依て得た金を醸出した青年の中心機關となるべき一つの建物を造る事にしたのであります。

各青年が醸出した金は約百八十萬圓であります。それは皆火の出る様な勞働や血の流れる様な勤儉によつて得た零細な金の集まりでありまして他の富豪達の醸出金による何々俱樂部何々會館なき、いふ種のものとは大いに意義を異にしたものであります。

幸ひにして此の舉を美し明治神宮奉贊會では其の外苑敷地の一部を割いて永久無償で日本青年館に貸與する事になりました。場所は元の青山練兵場の西隅歩兵四聯隊の傍でありまして明治神宮の大競技場と聖徳記念繪畫館とを指呼の間に控えた誠に絶好の敷地であります。



(1) Laying the Corner Stone.  
(1) 大正十三年六月三日日本青年館定礎式下は定礎板表面の記録

青年館を愈建設する事になりましたが全國青年の中心になる建物でありますからその目的に添はなければなりません、その爲めには第一青年團の事業を直接に行ふ事務所がいます。次ぎには地方青年が出京した場合利用し得る様な宿舍の設備をする事にし、第三には全國青年が互に所信を披瀝し抱負を述ぶべき一大會堂をつくる事にしたのであります。

それで青年館のプランは別項平面圖にもあります通り大體事務所の部、宿舍の部、講堂の部と二つに別かれて居ります。

事務所は第一階北半を占めてをります。受付應接室圖書室倉庫等が附屬して居ります。大講堂はその左で上の二階以上を占めて居ります。二層の棧敷がありまして定員約千五百人此の種の建物としては

割合に廣い舞臺を持て居ります。演說會や活動寫眞ばかりでなく、七八十人のオーケストラやページェント簡単な演劇位は出来る方がいゝと考へたからであります。

日本青年館	
大正十三年六月三日定礎	
本館ハ大正九年十一月二十二日	
皇太子殿下ヨリ青年ニ令旨ヲ	
賜リタルコトヲ記念セムカタメ全國	
青年ノ醸出金ヲ以テ建設ス	
財團法人 日本青年館	
同 賴田正三位勳一等 法學博士 一木喜徳郎	同 從三位勳二等 床次竹二郎
同 同 正三位勳一等 法學博士 岡野敬次郎	同 同 正四位勳二等 鎌田榮吉
同 同 正四位勳一等 法學博士 高田早苗	同 同 正四位勳一等 功三級男爵 田中義一
同 同 正四位勳一等 子爵 中橋徳五郎	同 同 正三位勳一等 後藤新平
同 同 正三位勳一等 法學博士 水野鍊太郎	